

会 議 録				
平成29年度第1回 在宅医療・介護連携推進 会議	日 時	平成29年7月13日(木) 午後7時00分～	場 所	小金井市役所 第2庁舎 8階801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	齋藤寛和委員長(小金井市医師会) 橋詰委員(小金井市歯科医師会) 森田委員(小金井市薬剤師会) 大山委員(小金井太陽病院) 岩井委員(のがわ訪問看護ステーション) 高塚委員(みずたま介護ステーション小金井ケアプランセンター) 関本委員(小金井たすけあいわーかーずほっとわあく) 日高委員(東京都多摩府中保健所 地域保健推進担当課長)		
	事務局	増田(小金井きた地域包括支援センター) 高橋(小金井ひがし地域包括支援センター) 山田(小金井みなみ地域包括支援センター) 久野(小金井にし地域包括支援センター) 鈴木(高齢福祉担当課長) 福多、篠原(介護福祉課 包括支援係) 川崎(小金井市医師会在宅医療・介護連携支援室)		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可	傍聴者数	1人	
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 高齢福祉担当課長 挨拶 2 在宅医療・介護連携推進会議について 3 議題 (1) 医療と介護の連携について他職種に期待すること (2) 意見交換				
1. 高齢福祉担当課長挨拶 <委員長選出> 指名推薦により委員長は齋藤委員に決定 2 在宅医療・介護連携推進会議について (齋藤寛和委員長)				

<目的>医療と介護の連携における課題の抽出と検討を進めていく

<地域包括ケアシステムについて>全ての人々が、特に高齢者が住みなれた地域で尊厳のある人生を最後まで楽しく続けることができるよう、保健、医療、福祉といったさまざまな支援が包括的に提供される体制。先行事例は幾つかあるが、どこのやり方がベストということではなく、まず自分たちの地域のニーズは何なのか把握して、実際に合わせて取り組んでいくもの。

3 議題

(1) 医療と介護の連携について他職種に期待すること

(各職種に寄せられた期待されることについて各委員より)

(齋藤寛和委員長) 医師会に寄せられた期待されることについて

- ・垣根を低く、連絡を取りやすくしてほしい→ケアマネタイムやICTによる連携を進めてきた。
- ・介護保険についての理解を深めてほしい→介護保険の勉強会を実施した。
- ・精神科の患者に対する地域医療連携や、アウトリーチの実施→北多摩南部医療圏で井之頭病院を中心に、精神科連携について検討中。
- ・訪問診療医の充実をしてほしい→医師会で努力しているが、まだまだ十分ではない。

(橋詰委員) 歯科医師会に寄せられた期待されることについて

- ・連携の輪に入ってほしい→橋詰委員か歯科医師会の事務局への依頼をお願いしたい。
- ・非会員と同じで動く→難しい。
- ・連携のとりやすさや医学的視点でのアドバイス→口腔ケアの指導教育等、歯科から発信するような勉強会を今後検討中。
- ・在宅チームに最初から入ってほしい→歯科医師会を最初に通した方が円滑に進むのではないかと思う。
- ・書面でなく情報共有や相談ができる→今後課題とさせて頂きたい。
かかりつけ患者の在宅診療→実施済み。
- ・延々と訪問診療が続く、訪問歯科の料金をわかりやすく→恐らく歯科医師会以外の先生で行っていること。歯科医師会に連絡すれば、ある程度正確な額は言えると思う。
- ・医院のバリアフリー等の情報→歯科医師会にご連絡いただきたい。
- ・外来通院中の患者の認知症→今後、包括に連絡するように周知徹底する。
- ・各歯科医院の専門分野の情報提供→歯科医師会に電話を頂きたい。
- ・オールマイティに治療→難しい。歯科医師会へご連絡いただければドクターの選出をしている。

- ・気がかりな高齢者の声かけ→歯科医師会内で周知徹底させたい。
- ・介護保険についての勉強→歯科医師会でも近日中にやらなければいけない課題。
- ・重症心身障害者の治療→多摩クリニック等への紹介が可能。

(森田委員) 薬剤師会に寄せられた期待されることについて

- ・薬局側からの情報が欲しい→お互いに情報が欲しいと言っているが動いていない感じがあり、薬局側から情報を発信していくように薬剤師会内で働きかけていく。
- ・24時間対応、麻薬の在庫、服薬や在庫の管理→他の薬局と連携し取り組んでいく。
- ・在宅をやっているけど伝わっていない印象がある。薬剤師会はどんどん街に出ていくように、働きかけていくし、在宅がもっと増えるように今後進めていきたい。

(大山委員) 医療機関医療連携室に寄せられた期待されることについて

- ・医療連携室がどれだけ周知されているか不安に思った。今は事務的なことやベッド調整など仕事の範囲が広がっている。
- ・なかなか全部のケースに携わることが難しい。まずは病院内の看護師との連携をきちんとやっていきたい。
- ・退院後不要なサービスがあった→サービスの詳細な説明、また連携に反省。
- ・病院の相談窓口の名称・番号のわかりにくさ→病院にもよる。組織の問題もある。
- ・身寄りのない方→どなたかに判断を仰ぎたいが無理をおかけしていると判った。

(日高委員)

- ・退院支援加算2という診療報酬が取れるため、どこの病院も一生懸命、看護部長が取り組んでいる。看護部長会にて、退院後の訪問看護について臨床の若いナースが、訪問することの意義、自宅を見て退院前支援をする必要性、どういう退院準備をしなければいけないか、等を知り、自分たちは的外れなことを言っていたと気づいた、と聞いている。地域連携室の方には、地域がわからないナースとしっかりかんでいただけると、ネットワークが組めるようになるのかなと思った。

(岩井委員) 訪問看護に寄せられた期待されることについて

- ・基本的には、医療と介護の連携の部分の関わりを期待されていると受け取った。
- ・他職種連携について、訪問看護師を活用できる取り組みに繋がりたいので、遠慮なく御相談していただければと思う。
- ・グリーフサポートについて→勉強会を訪問看護グループで行っている。
- ・精神科患者や、重症心身障害者の在宅療養支援→ある程度のところまでだったら対応できるが、それ以上だったら専門のところにとという形にしている。今後、そのような方々の在宅が増えていくので、特に保健所と連携がとれると安心して受けられる。

・24時間体制の構築→市内訪問看護ステーションの半数以上は24時間体制だが、マンパワーの問題がある。

・今後の契約にならないケースでも訪問時に協力していただきたい→実際に電話を頂いており、相談事にもよるが、可能な範囲で対応している。

(事務局・久野)

退院支援について東京都のモデル事業を実施した際、訪問看護導入に伴うアセスメントシートのようなものをつくった。小介連の居宅の部会に渡したい。

(高塚委員) 居宅介護支援事業所に寄せられた期待されることについて

・一人一人のケアマネのやり方に統一性がなく、ケアマネジメントに差があるのが今の実情。

・ケアマネの仕事は多岐にわたっている。臨床の看護師などは、恐らく在宅のケアマネの仕事のイメージがつかないと思われ、連携においては底上げとケアマネの仕事について周知が課題。

・主任ケアマネの会を発足させており、支援の仕方を統一できるようにしていかないと適切な連携は難しいと感じた。

(関本委員) 介護事業所に寄せられた期待されることについて

・早期発見の連絡、連携に尽きる。私たち事業所ではケース検討について、特に問題のある利用者に関しては割と頻繁に行っており、気づいたことを、事業所内で止めずに発信できるのが一番いい体制なのではと常に思っている。

・ケース検討をタイムリーにする→調整が難しいこともあり常に課題の一つ。

(日高委員) 保健所に寄せられた期待されることについて

・特に精神の方々への支援→連絡を受けてすぐに動くことが難しい場合が多く、とても時間がかかる。

・難病の制度、在宅療養、他の自治体の活動の情報の提供→努力していきたい。

・難病について→在宅を支える人たちが出会う前の、病気を受けとめて、これから在宅療養を家族、御本人が固めるところを特に頑張って支援する動きをしている。

・感染症のこと→施設に出向いての研修、新たな感染症が出た際はマニュアルを出したりしている。

(事務局・高橋) 包括に寄せられた期待されることについて

・職員の力量差→職員の入れ替わりなどがある。研修等重ねていきたい。

・ケアマネに対する支援→スキルアップを図る研修等を重ねていきたい。

- ・どのエリアでも同じように円滑に支援ができるようにしてほしい→包括の差であり、職種ごとの連携の連絡会等も開催して情報共有を図っていかなければいけない。
- ・地域作り→地域ケア会議が包括の肝。会議で忌憚のない御意見をいただきたい。
- ・ネットワークづくり→まず住民の方とのつながりを持ち、身近なところとの連携を図り、そこから派生して介護の事業所、関係機関との連携へとようになっていく。包括のほうからも積極的に働きかけを行っていければと思っている。些細なところから御連絡をいただけたらありがたい。

(事務局・増田)

- ・電話がつながりにくい→伝言等残していただければ対応できるようにしたい。

(事務局・福多) 市に寄せられた期待されることについて

- ・医療と介護の連携の取り組み、対応→皆様からの御協力を頂き方向性が出てくるものなので、今後も検討を重ねていきたい。
- ・地域ケア会議の充実、地域課題を明らかに→既に会議で検討を重ね、現状や課題を把握できてきており、今後ともご協力いただきたい。
- ・多職種に関すること、連携に関する情報提供→今年度から連携支援室が市から医師会に委託して7月から本格稼働しており、支援室を活用して頂きたい。
- ・今年度は医療資源マップを作成予定。
- ・市民向けの普及啓発→今年度は在宅医療をテーマにした市民向けの講演会を2月に実施予定。また、在宅医療に関するリーフレットを作成予定。
- ・介護職や看護職の人材確保、育成→市が実施する講演会や各種イベントなどで、都の事業の周知などをあわせて取り組むことも一つと考える。
- ・市職員の同行訪問や担当者会議の参加→高齢者に関する相談窓口は包括にはなるが、市の中にも地区担当が配置されており、必要時訪問や会議へ参加している。
- ・市役所内の体制や連携→市役所全体の話になり、今後の課題。
- ・ICTの登録→市役所は不審メールを頻繁に受信するなど、公的機関は標的にされやすいという現状もあり、今後の検討課題である。

(鈴木高齢福祉担当課長)

来年度に若干組織改正が行われるという話を聞いている。また、平成33年度に新庁舎ができる予定で、新庁舎の竣工にあわせて大規模な組織改正の予定も聞いている。一定の縦割りの解消等について期待したいと思っている。

(2) 意見交換

(橋詰委員)

11月29日に歯科医師会の主催で小金井3師会の学術講演会を予定。口腔ケア、摂食・

嚙下系の講師をお呼びしている。他職種も含めて御参加いただける内容にするので、興味があったら参加して頂きたい。

(事務局・川崎)

7月から連携支援室が開設され、ここ最近、近隣市の支援室の方とも連携をとって、それぞれの地域での課題等々を話している。小金井市として連携支援室に何を求められているか把握したいので、関係機関にお配りしているチラシに書いてあること以外で、支援室へお願いしたいことなど、何か御意見があれば、ご連絡頂きたい。

<次回の日程>

次回 10月19日。場所は後日連絡。